



山影のひらひら音の紙を干す
多歴史

山に抱かれた清流に響む里で、手
さきで紙を一枚一枚人念にすきあ
げられた生紙は、品もよく丈夫な
のでじにしきより「用紙」として
珍重されきたが、コウゾ、ミツ
タ、ガシビを原料とし今でも昔
ながらの原始的な手法で製紙して
いる。石城郡遠野町深田に散在
する五十軒の農家では、四百年に
亘る先祖傳來の秘法をまつまつ
けついでコウゾを栽培し、家内工業
的生紙をさき続けているが、そ
の製品は「上達野紙」として知
られ、いにしへの人達からよな
く愛されている。

(深田字鷹の巣 山野茂三氏宅
にて カメラ渡辺写真部員)

身を洗られる様な冷たい上湯野
川の済流でコウゾを洗う。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

